

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 貴船 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域等では、全領域で全国平均を下回っている。さらなる授業改善を進めていく必要がある。
	よくできた問題	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題はおおむねできていた。
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く問題があまりできていなかった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域等では、選択制の「書くこと」の領域が伸びていたが、文章の構成を理解したり、それらを整理して自ら書くということにおいては、やや苦手にしている傾向がある。
	よくできた問題	紹介する文章を基にしておすすめする文章を書くときの工夫として適切なものを選択する問題は良くできていた。
	努力が必要な問題	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることが苦手である。
算数A	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域等では「量と測定」の領域が全国平均を上回った。しかし、「図形」の領域が低く、空間認知能力や作図などの能力を上げていく努力が求められる。
	よくできた問題	角の大きさが何度であるかを選ぶ問題は、良くできていた。
	努力が必要な問題	小数の除法の問題があまりできていなかった。除法の意味を理解する必要がある。
算数B	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域等では、どの領域も全国平均を下回っている。特に「数量関係」の領域の学習に力を注がなければならない。
	よくできた問題	合同な三角形で敷き詰められた模様の中から、見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ問題はおおむねできていた。
	努力が必要な問題	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題ができていなかった。
理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の区分等では、どの領域も全国平均を下回っている。特に「エネルギー」や「地球」に関する内容に課題がある。
	よくできた問題	より妥当な考えを作り出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察する問題はよくできていた。
	努力が必要な問題	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する問題ができていなかった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○ 「宿題をしていますか」の質問に対し、やっているとの回答が95%を上回っている。家庭学習で1時間以上学習している児童は全体の22%で、まだまだ家庭での学習時間には改善が必要である。</p> <p>○ 「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対し、肯定的回答が約65%である。本校の主題研究「学び合い」を、継続して取り組んでいく。</p> <p>○ 生活習慣では、「毎日同じ時刻に寝ていますか」の質問では約3割の児童が「いいえ」であり、家庭での基本的な生活習慣の乱れが見られる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○ 学習の中で、課題に向かってすべての児童が分かることを目指した「学び合い」は、確実に効果を上げつつあるが、まだまだ発展途上の部分もある。更に研究を深め、工夫し、学力定着を目指していかなければならない。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 家庭学習の時間の確保と基本的な生活習慣の改善を、全保護者に周知してもらうように積極的に働きかけていく。
○ ゲームやスマホに費やす時間が長い児童がいるので、家庭できちんと時間を決めて使用するように指導する。